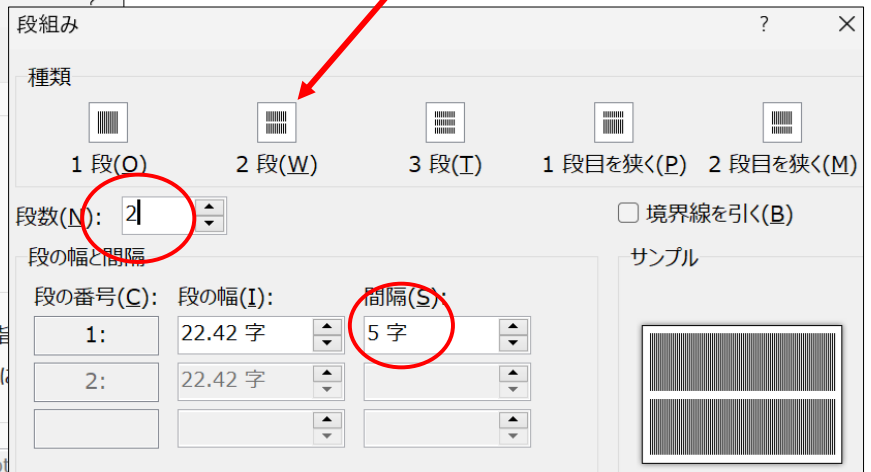
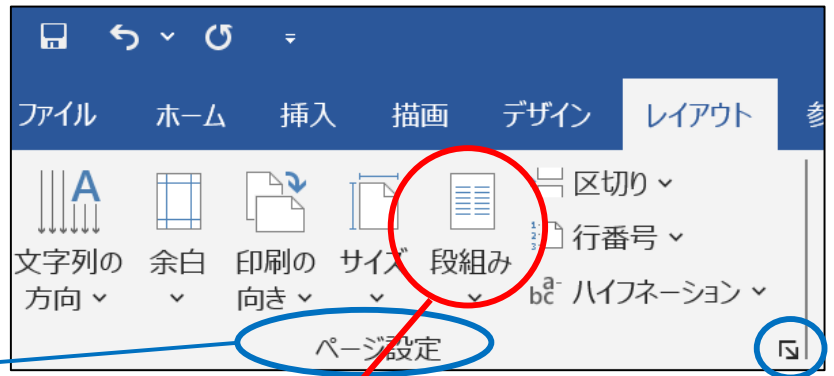


# 詩集を作ろう！（前回の応用編）

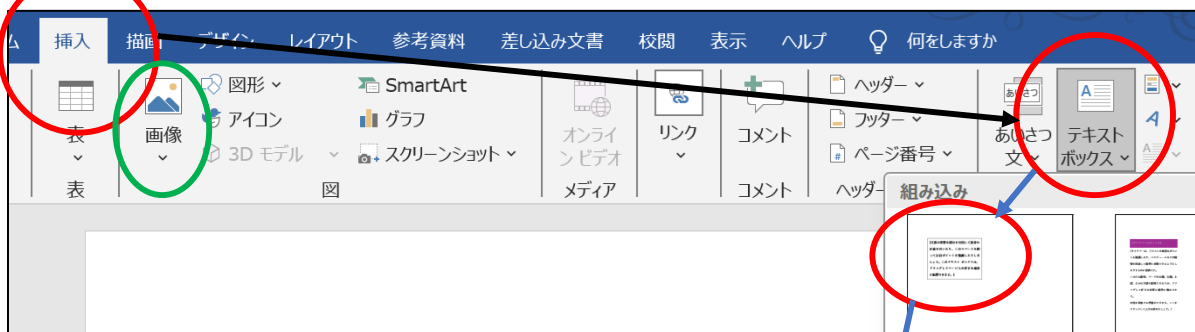
1)ワードを立ち上げ、レイアウトで余白を狭い。印刷の向きは横、文字列は縦  
段組は詳細設定を選び、2段、間隔を5字

2)ページ設定、文字数と行数で、縦書き  
標準の文字数を使う

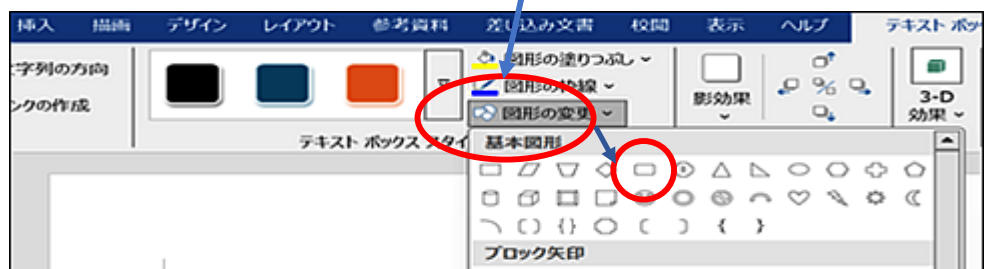


3)インターネットで「金子みすず短歌集」を検索 好きな部分をコピーして貼り付ける  
「金子みすずの詩 読むだけで優しくなれる」をコピーして貼り付ける  
検索無しで、ホームページNo.507より、金子みすず・概略データをダウンロードして利用してもよい。

4)各種枠を挿入する



5)図形の枠線で太さ形など変更  
6)選んだ枠に文字を入れる  
7)挿入→画像で写真などを挿入する(またはコピペする)



完成版 → 次頁

# 金子・みすず

(1903 - 1930)

## 特選詩集

大正末期から昭和初期の童謡詩人。

西条八十から「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛されたが早逝のためその作品は散逸し、幻の童謡詩人と語り継がれるばかりだった。

1903年(明治36年)4月11日

山口県生まれ

1926年(23歳)で結婚するが、夫の浮気や家庭内のトラブルに苦しむ。

夫から詩作を禁じられ、離婚を迫られるが娘を守るために離婚はせず。

1930年(26歳) 精神的に追い詰められ、娘の将来を案じながら服毒自殺。

### 私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、  
お空はちつとも飛べないが  
飛べる小鳥は私のように、  
地面を速くは走れない。



私がかからだをゆすつても、  
きれいな音は出ないけど、  
あの鳴る鈴は私のように  
たくさんな唄は知らないよ。  
鈴と、小鳥と、それから私、  
みんなちがつて、みんないい。

こだまでしょうか

「遊ぼう」っていうと

「遊ぼう」っていう。

「馬鹿」っていうと

「馬鹿」っていう。

「もう遊ばない」っていうと

「遊ばない」っていう。

そうして、あとで

さみしくなって、

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、

いいえ、誰でも。

### 雪

誰も知らない野の果で  
青い小鳥が死にました



さむいさむいくれ方に  
そのなきがらを埋めよとて  
お空は雪を撒きました

ふかくふかく音もなく  
人は知らねど人里の  
家もおともにたちました

しろいしろい被衣着て  
やがてほのぼのあくる朝  
空はみごとに晴れました

あおくあおくうつくしく  
小さいきれいなたましいの  
神さまのお国へゆくみちを  
ひろくひろくあけようと